

品種や地域で登熟進度にバラツキあり。 稲穂を確認し、的確な診断で適期に刈取りを！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

出穂後の気温は平年並みに推移しており、早生品種や出穂が早かった品種では、平年より早く刈取適期に入る見込みです。一方で、北村山や最上地域では、日照不足の影響で登熟が緩慢なほ場が見られ、地域間で登熟進度にバラツキがあります。また、「つや姫」等晩生品種の登熟も緩慢になっています。

稲穂の状態をよく確認し、刈取適期になったら速やかに刈取りに入れるように、早めに準備を進めましょう。

◎「はえぬき」「雪若丸」の登熟状況

8月30日現在の登熟歩合は、「はえぬき」は県内平坦部の平均で**43.8%（平年差-12.8ポイント）**と平年よりやや遅れています（表1）、農業総合研究センター（山形市）では、登熟歩合が49.6%となっています（図1）。「雪若丸」は、県内平坦部の平均で44.2%となっています。

表1 8月30日現在の登熟歩合（%）

	はえぬき	つや姫	雪若丸
本年	43.8	14.0	44.2
前年	60.6	23.1	59.8
平年	56.6	31.9	—
平年比	-12.8	-17.9	—

農業技術普及課調べ、県内平坦部平均

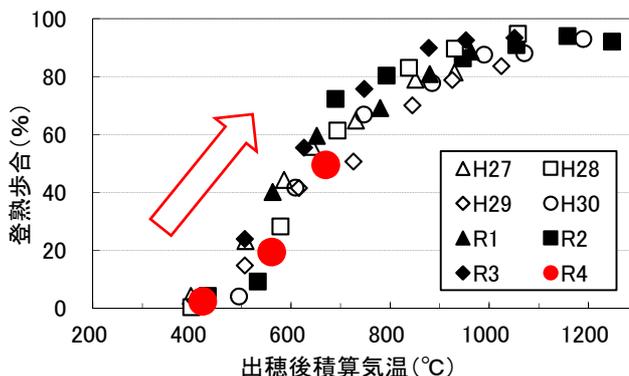


図1 出穂後日平均気温積算値（積算気温）と登熟歩合（農業総合研究センター「はえぬき」作況ほ、8/2出穂）

◎「はえぬき」「雪若丸」の刈取適期

県内平坦部の「はえぬき」、「雪若丸」の刈取始期は、いずれも出穂後の日平均気温積算値（積算気温）950℃からが目安であり、出穂期が8月4日の「はえぬき」、8月5日の「雪若丸」とも9月10日頃からとなる見込みです。

積算気温を目安とし、枝梗の黄化、青粳歩合、粳水分、倒伏程度などを加味して総合的に判断します。

◎刈遅れは、胴割れ・茶米等による品質低下の恐れあり！適期内収穫を！

出穂が早かった品種や地域では、出穂後10日間の気温が高温となっており、胴割粒が発生しやすい条件となっています。刈取適期を過ぎると品質の低下が早まるので、絶対に刈り遅れないようにします。特に、本年は1穂粳数が多く、青粳歩合の低下が緩慢になっていると錯覚する場合がありますので、ほ場や1穂の登熟状況を細かに観察し、的確な診断と、早めの刈取りで胴割粒や茶米等の発生による品質・食味の低下を防ぎましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

農作業は休憩と水分を十分にとりながら、余裕を持って複数人数で行いましょう。コンバイン使用時等、収穫作業時における重大事故に注意しましょう。 **STOP農作業事故！**